

大阪医科大学 2015年度(後期)入学試験 解答速報 数学

2015年3月10日 実施

[1] 初項をそれぞれ a_1, b_1 ($0 < a_1 < b_1$) とする数列 $\{a_n\}, \{b_n\}$ ($n = 1, 2, \dots$) を, $n \geq 2$ のときは以下の式で定める:

$$a_n = \frac{2a_{n-1}b_{n-1}}{a_{n-1} + b_{n-1}}, \quad b_n = \frac{a_{n-1} + b_{n-1}}{2}$$

- (1) $n \geq 2$ のとき, 積 a_nb_n を a_1, b_1 を用いて表せ。
- (2) $n \geq 2$ のとき, $a_{n-1} < a_n < b_n < b_{n-1}$ を示せ。
- (3) $n \geq 2$ のとき, $b_n - a_n < \frac{1}{2}(b_{n-1} - a_{n-1})$ を示せ。
- (4) $\lim_{n \rightarrow \infty} a_n^2 = a_1b_1$ を示せ。

解答

(1) すべての自然数 n について $a_n > 0, b_n > 0$ が帰納的に成り立つのは明らかである。

$n \geq 2$ のとき $a_nb_n = \left(\frac{2a_{n-1}b_{n-1}}{a_{n-1} + b_{n-1}}\right) \cdot \left(\frac{a_{n-1} + b_{n-1}}{2}\right) = a_{n-1}b_{n-1}$ より, $\{a_nb_n\}$ は定数列になる。したがって, $a_nb_n = a_1b_1$ 。

(2) まず $a_n < b_n$ を数学的帰納法で示す。

(I) $n = 1$ のとき明らかに成立。

(II) $n = k$ のとき $a_k < b_k$ が成立すると仮定する。

$$b_{k+1} - a_{k+1} = \frac{a_k + b_k}{2} - \frac{2a_kb_k}{a_k + b_k} = \frac{(a_k + b_k)^2 - 4a_kb_k}{2(a_k + b_k)} = \frac{(b_k - a_k)^2}{2(a_k + b_k)} > 0$$

より $n = k + 1$ で $a_{k+1} < b_{k+1}$ が成立する。

(I)(II) より, すべての自然数 n について $a_n < b_n$ が成立する。

さらに, $n \geq 2$ のとき

$$a_n - a_{n-1} = \frac{2a_{n-1}b_{n-1}}{a_{n-1} + b_{n-1}} - a_{n-1} = \frac{a_{n-1}(2b_{n-1} - a_{n-1} - b_{n-1})}{a_{n-1} + b_{n-1}} = \frac{a_{n-1}(b_{n-1} - a_{n-1})}{a_{n-1} + b_{n-1}} > 0$$

より $a_{n-1} < a_n$. 同様に,

$$b_{n-1} - b_n = b_{n-1} - \frac{a_{n-1} + b_{n-1}}{2} = \frac{b_{n-1} - a_{n-1}}{2} > 0$$

より $b_n < b_{n-1}$. 以上より題意は示された。 (証明終)

(3) $n \geq 2$ のとき,

$$\begin{aligned} b_n - a_n &= \frac{(b_{n-1} - a_{n-1})^2}{2(a_{n-1} + b_{n-1})} = \frac{1}{2}(b_{n-1} - a_{n-1}) \cdot \frac{b_{n-1} - a_{n-1}}{a_{n-1} + b_{n-1}} \\ &< \frac{1}{2}(b_{n-1} - a_{n-1}) \quad (\because a_{n-1} > 0) \quad (\text{証明終}) \end{aligned}$$

(4) (2)(3) より $0 < b_n - a_n < \frac{1}{2^{n-1}}(b_1 - a_1)$ となるので, $0 < a_n < b_1$ より

$$0 < a_n b_n - a_n^2 < \frac{a_n}{2^{n-1}}(b_1 - a_1) < \frac{b_1}{2^{n-1}}(b_1 - a_1)$$

よって挟みうちの原理より $\lim_{n \rightarrow \infty} (a_n b_n - a_n^2) = 0$.

したがって $\lim_{n \rightarrow \infty} a_n^2 = \lim_{n \rightarrow \infty} \{a_n b_n - (a_n b_n - a_n^2)\} = a_1 b_1$ (証明終)

注釈

$\lim_{n \rightarrow \infty} (b_n - a_n) = 0$ を示しても, $\{a_n\}$ や $\{b_n\}$ が収束することを言わなければ $\lim_{n \rightarrow \infty} a_n^2 = \lim_{n \rightarrow \infty} a_n b_n$ とはいきることができない.

大学受験の範囲から外れるが, 実数の完備性より導き出される

「有界な単調数列は収束する」

という定理を用いれば, $a_{n-1} < a_n < b_1$ より $\{a_n\}$ の収束は容易に説明できる. この場合,

$$\lim_{n \rightarrow \infty} a_n^2 = \lim_{n \rightarrow \infty} \{a_n b_n - a_n(b_n - a_n)\} = a_1 b_1 - 0 = a_1 b_1$$

と示すことができる.

〔2〕四面体 $OABC$ は、各面が互いに合同な三角形である。 $\triangle ABC$ の辺の長さを $BC = a$, $CA = b$, $AB = c$ として、 a, b, c は互いに異なるとする。辺 OA, OB, OC の中点をそれぞれ A_1, B_1, C_1 , 辺 BC, CA, AB の中点をそれぞれ L, M, N とする。

- (1) $\triangle OAB$ の 2 辺 OA, OB の長さをそれぞれ a, b, c で表せ。
- (2) 3 本の直線 LA_1, MB_1, NC_1 は一点で交わることを示せ。
- (3) 3 本の直線 LA_1, MB_1, NC_1 は互いに直交することを示せ。

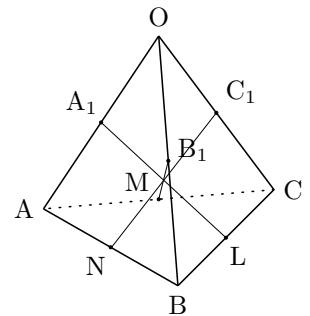
解答

(1) $AB = c, CA = b$ であることから $OA \neq b, c$ となるので $OA = a$ であり、さらに $OB = b$ も分かる。($OC = c$ である)

(2) $\vec{OA} = \vec{a}, \vec{OB} = \vec{b}, \vec{OC} = \vec{c}$ とすると、各点の位置ベクトルは以下ようになる。

$$\vec{OA}_1 = \frac{1}{2}\vec{a}, \vec{OB}_1 = \frac{1}{2}\vec{b}, \vec{OC}_1 = \frac{1}{2}\vec{c}$$

$$\vec{OL} = \frac{1}{2}(\vec{b} + \vec{c}), \vec{OM} = \frac{1}{2}(\vec{c} + \vec{a}), \vec{ON} = \frac{1}{2}(\vec{a} + \vec{b})$$



したがって、 LA_1, MB_1, NC_1 の中点の位置ベクトルはいずれも $\frac{1}{4}(\vec{a} + \vec{b} + \vec{c})$ となるから、3 直線はこのベクトルで表される点で交わる。(証明終)

(3) $\vec{LA}_1 = \vec{OA}_1 - \vec{OL} = \frac{1}{2}\{(\vec{a} - \vec{b}) - \vec{c}\}$, $\vec{MB}_1 = \vec{OB}_1 - \vec{OM} = -\frac{1}{2}\{(\vec{a} - \vec{b}) + \vec{c}\}$ より、

$$\vec{LA}_1 \cdot \vec{MB}_1 = -\frac{1}{4}(|\vec{a} - \vec{b}|^2 - |\vec{c}|^2) = -\frac{1}{4}(AB^2 - OC^2) = -\frac{1}{4}(c^2 - c^2) = 0$$

となるので $LA_1 \perp MB_1$ である。同様に、

$$\vec{MB}_1 \cdot \vec{NC}_1 = -\frac{1}{4}(|\vec{b} - \vec{c}|^2 - |\vec{a}|^2) = -\frac{1}{4}(a^2 - a^2) = 0$$

$$\vec{NC}_1 \cdot \vec{LA}_1 = -\frac{1}{4}(|\vec{c} - \vec{a}|^2 - |\vec{b}|^2) = -\frac{1}{4}(b^2 - b^2) = 0$$

となるので $MB_1 \perp NC_1, NC_1 \perp LA_1$ である。(証明終)

【参考】ここでの四面体は「等面四面体」と呼ばれるもので、各辺を対角線とする長方形を面とする直方体が存在する。(2)(3)の3直線は、この直方体の向かい合う2面の中心を結んだものになるので、(2)(3)は直ちに示される。

[3] a を実数の定数として, $f(x) = 2x^3 - 3x^2 + 6a(1-a)x + 4a(1-a)^2$ とおく。

(1) x の関数 $f(x)$ の極値を求めよ。

(2) 3 次方程式 $f(x) = 0$ が異なる 3 つの実数解を持つための a の条件を求めよ。

解答

(1) $f'(x) = 6(x-a)\{x-(1-a)\}$ より,

(i) $a < \frac{1}{2}$ のとき

x	...	a	...	$1-a$...
$f'(x)$	+	0	-	0	+
$f(x)$	↗	$f(a)$	↘	$f(1-a)$	↗

極大値 $f(a) = -a(5a-4)$.

極小値 $f(1-a) = (1-a)^2(8a-1)$.

(iii) $a = \frac{1}{2}$ のとき, 極値はない.

(ii) $a > \frac{1}{2}$ のとき

x	...	$1-a$...	a	...
$f'(x)$	+	0	-	0	+
$f(x)$	↗	$f(1-a)$	↘	$f(a)$	↗

極大値 $f(1-a) = (1-a)^2(8a-1)$.

極小値 $f(a) = -a(5a-4)$.

(2) $y = f(x)$ が極大値と極小値をもち, かつそれらが異符号となればよい.

極値を持つ条件は (1) より $a \neq \frac{1}{2}$.

極値が異符号となるのは $f(a) \cdot f(1-a) = -a(5a-4)(1-a)^2(8a-1) < 0$

$$\iff 0 < a < \frac{1}{8}, \frac{4}{5} < a < 1, a > 1$$

よって答は $0 < a < \frac{1}{8}, \frac{4}{5} < a < 1, a > 1$

[4] 極座標で $r = \cos 2\theta$ ($-\frac{\pi}{4} \leq \theta \leq \frac{\pi}{4}$) と表される曲線 C を考える。

- (1) θ に対応する C 上の点の直交座標 x, y を, θ を媒介変数として表せ。
- (2) $-\frac{\pi}{4} < \theta < 0$ または $0 < \theta < \frac{\pi}{4}$ の範囲の θ に対応する点における C の接線の傾きを $T(\theta)$ として, $\lim_{\theta \rightarrow -\frac{\pi}{4}+0} T(\theta)$ と $\lim_{\theta \rightarrow \frac{\pi}{4}-0} T(\theta)$ を求めよ。
- (3) 曲線 C の概形を描け。
- (4) 曲線 C が囲む図形の面積を求めよ。

解答

(1) $x(\theta) = r \cos \theta = \cos \theta \cos 2\theta, \quad y(\theta) = r \sin \theta = \sin \theta \cos 2\theta$

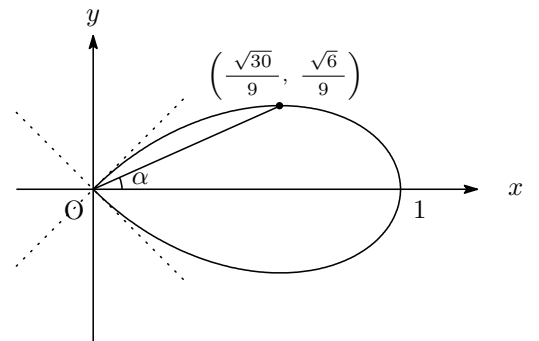
(2) $\frac{dx}{d\theta} = -2 \sin 2\theta \cos \theta - \cos 2\theta \sin \theta, \quad \frac{dy}{d\theta} = -2 \sin 2\theta \sin \theta + \cos 2\theta \cos \theta$ より,

$$T(\theta) = \frac{\frac{dy}{d\theta}}{\frac{dx}{d\theta}} = \frac{-2 \sin 2\theta \sin \theta + \cos 2\theta \cos \theta}{-2 \sin 2\theta \cos \theta - \cos 2\theta \sin \theta} \text{ となる.}$$

したがって, $\lim_{\theta \rightarrow -\frac{\pi}{4}+0} T(\theta) = -1, \quad \lim_{\theta \rightarrow \frac{\pi}{4}-0} T(\theta) = 1$

(3) $x(\theta) = x(-\theta), y(\theta) = -y(-\theta)$ が成り立つから, C のグラフは x 軸に関して対称な図形となる. また $0 < \theta < \frac{\pi}{4}$ において, $\frac{dx}{d\theta} = -2 \sin 2\theta \cos \theta - \cos 2\theta \sin \theta < 0, \quad \frac{dy}{d\theta} = \cos \theta (6 \cos^2 \theta - 5)$ より増減表およびグラフの概形は以下のとおり (ただし α は $\cos \alpha = \frac{\sqrt{30}}{6}$ を満たす角とする).

θ	0		α		$\frac{\pi}{4}$
$\frac{dx}{d\theta}$	-0	-	-	-	$-\sqrt{2}$
$\frac{dy}{d\theta}$	1	+	0	-	$-\sqrt{2}$
$\frac{dy}{dx}$	$-\infty$	-	0	+	1
(x, y)	(1, 0)	\nwarrow	$\left(\frac{\sqrt{30}}{9}, \frac{\sqrt{6}}{9}\right)$	\swarrow	(0, 0)



(4) 積和の公式を用いて, $x(\theta) = \frac{\cos 3\theta + \cos \theta}{2}$, $y(\theta) = \frac{\sin 3\theta - \sin \theta}{2}$, $\frac{dx}{d\theta} = \frac{-3 \sin 3\theta - \sin \theta}{2}$ としておく. 求める面積を S とおくと,

$$\begin{aligned}
 S &= 2 \int_0^1 y \, dx = 2 \int_{\frac{\pi}{4}}^0 y(\theta) \frac{dx}{d\theta} d\theta = -2 \int_0^{\frac{\pi}{4}} \frac{\sin 3\theta - \sin \theta}{2} \cdot \frac{-3 \sin 3\theta - \sin \theta}{2} d\theta \\
 &= \int_0^{\frac{\pi}{4}} \frac{3 \sin^2 3\theta - 2 \sin 3\theta \sin \theta - \sin^2 \theta}{2} d\theta \\
 &= \int_0^{\frac{\pi}{4}} \left(\frac{3}{2} \cdot \frac{1 - \cos 6\theta}{2} - \frac{\cos 4\theta - \cos 2\theta}{-2} - \frac{1}{2} \cdot \frac{1 - \cos 2\theta}{2} \right) d\theta \\
 &= \int_0^{\frac{\pi}{4}} \left(\frac{1}{2} - \frac{1}{4} \cos 2\theta + \frac{1}{2} \cos 4\theta - \frac{3}{4} \cos 6\theta \right) d\theta \\
 &= \left[\frac{1}{2} \theta - \frac{1}{8} \sin 2\theta + \frac{1}{8} \sin 4\theta - \frac{1}{8} \sin 6\theta \right]_0^{\frac{\pi}{4}} \\
 &= \frac{\pi}{8} - \frac{1}{8} + 0 + \frac{1}{8} = \frac{\pi}{8}
 \end{aligned}$$

【参考】 回転方向の積分を用いると, $S = 2 \int_0^{\frac{\pi}{4}} \frac{1}{2} r^2 d\theta = \int_0^{\frac{\pi}{4}} \frac{1 + \cos 4\theta}{2} d\theta = \frac{\pi}{8}$ と手早く計算できる.

〔5〕 1から5までの5枚の番号札がある。その5枚を次のようにA, Bの2つの箱に分ける：

1は箱A, 2は箱B, 残りの番号札はそれぞれ硬貨投げを行って, 表なら箱A, 裏なら箱Bに入れる。
次に, 番号札をそれぞれよくかき混ぜ, 2つの箱から1枚ずつ札を取り出す。

(1) 1が取り出される確率を求めよ。

(2) 1が取り出されたとき, 2が取り出される条件つき確率を求めよ。

解答

事象 M, N をそれぞれ, M : 「1が取り出される」, N : 「2が取り出される」とし, 事象 M が起こる確率を $P(M)$ などと表すことにする。また, 3, 4, 5の番号札を○と表すことにして, それぞれの場合の確率を表にすると次のようになる。

箱 A	箱 B	左のように箱に入る確率	1が取り出される確率	2が取り出される確率
1○○○	2	$\left(\frac{1}{2}\right)^3 = \frac{1}{8}$	$\frac{1}{4}$	1
1○○	2○	${}_3C_2 \left(\frac{1}{2}\right)^2 \left(\frac{1}{2}\right) = \frac{3}{8}$	$\frac{1}{3}$	$\frac{1}{2}$
1○	2○○	${}_3C_1 \left(\frac{1}{2}\right) \left(\frac{1}{2}\right)^2 = \frac{3}{8}$	$\frac{1}{2}$	$\frac{1}{3}$
1	2○○○	$\left(\frac{1}{2}\right)^3 = \frac{1}{8}$	1	$\frac{1}{4}$

(1) 上の表から, $P(M) = \frac{1}{8} \cdot \frac{1}{4} + \frac{3}{8} \cdot \frac{1}{3} + \frac{3}{8} \cdot \frac{1}{2} + \frac{1}{8} \cdot 1 = \frac{15}{32}$

(2) 上の表から,

$$P(M \cap N) = \frac{1}{8} \cdot \frac{1}{4} \cdot 1 + \frac{3}{8} \cdot \frac{1}{3} \cdot \frac{1}{2} + \frac{3}{8} \cdot \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{3} + \frac{1}{8} \cdot 1 \cdot \frac{1}{4} = \frac{3}{16}$$

であるから, 1が取り出されたとき, 2が取り出される条件付き確率 $P_M(N)$ は

$$P_M(N) = \frac{P(M \cap N)}{P(M)} = \frac{\frac{3}{16}}{\frac{15}{32}} = \frac{2}{5}$$

講評

- 〔1〕（やや難）(2)で $a_n < b_n$ を数学的帰納法で証明する方向にいけるかがポイント。また (4) の極限も慎重な議論が必要。
- 〔2〕（易）素直に計算していただく。
- 〔3〕（易）3次方程式の解に関する問題。これも易しい。
- 〔4〕（やや難）媒介変数で表示された曲線に関する問題。(4) はうまく計算しないと手間と時間がかかる。
- 〔5〕（易）すべての場合を調べ尽くせば簡単に答までたどり着ける。

昨年度に比べて易化した。大問の2, 3, 5は完答したいところ。ボーダーは7割5分から8割。

医歯学部進学予備校 **メビオ**

〒540-0033 大阪市中央区石町2-3-12 ベルヴォア天満橋

TEL 06-6946-0109 FAX 06-6941-9416

<http://www.mebio.co.jp/>

